P

花尾小学校　学校通信　No.　18（学力特集号）

はなお

『キープスマイル・ステイポジティブ』

「地域の特性を基に，知・徳・体・志を備えた児童の育成」

令和４年１２月１３日　発行
北九州市立花尾小学校
校長　麻生　和秀

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

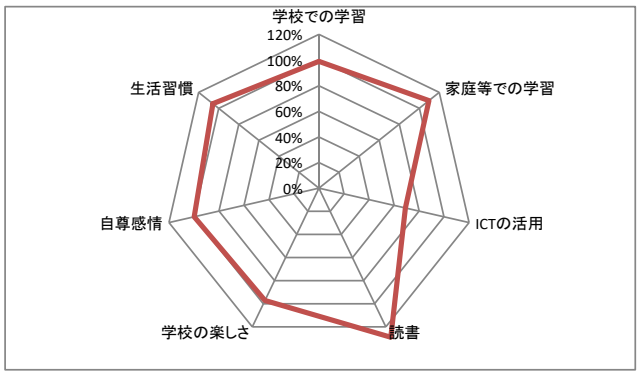
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	ほとんどの問題の正答率が全国平均を上回っている。正答数分布をみると、分布に広がりがあり、正答率が高い児童が割合的に高い一方、低い児童も一定数いることが分かる。文章の中から、問題に適した文を見付けることが苦手な児童が多い。	上回っている
算数	ほとんどの問題の正答率が全国平均を上回っている。正答数分布をみると、分布に広がりがあり、正答率が高い児童が割合的に高い一方、低い児童も一定数いることが分かる。倍数と約数の問題の正答率が低い。	上回っている
理科	ほとんどの問題の正答率が全国平均を上回っている。正答数分布をみると、分布に広がりがあり、正答率が高い児童が割合的に高い一方、低い児童も一定数いることが分かる。光の反射の問題と器具の名前の正答率が低い。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○学校に行くのが楽しいと感じている児童が多く、人と違う意見をもつことを恐れず、自分のよさを認めながら生活している児童が多くいる。 ○読書習慣が身に付いている児童が全国平均を大きく上回っている。 ○計画的に家庭学習を行い学習時間も全国平均を上回っている。 ●ICTの活用については低い数値を示しているが，昨年度は、ICTを使えているとは感じていない児童が多くいた。そのため、本年度から、AIドリルや、タブレットを用いた学習やアンケートを積極的に行っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

☆　児童の意欲関心が高まる授業改善を行っている。
☆　AIドリルなどを活用し、基礎基本の定着を図ることのできる取組を行っている。
☆　個人差が大きいため、活用力の向上を図ることのできる授業改善を行いつつ、個別の支援を行っている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

☆　家庭学習の具体的なやり方を指導したり、自主学習を学校で教師が評価したりすることで、児童の意欲の向上を図るようにしている。
☆　携帯やスマホの使い方については、約束を守って使っている家庭が多いことが分かった。引き続き、学校でも、学習時間や手紙などを利用して声かけを行っていく。
☆　児童が中学校への進級に対する不安を取り除けるように、中学校と連携を図っていく。